



TITLE:

九年度總會報告

AUTHOR(S):

高城

CITATION:

高城. 九年度總會報告. 天界 1934, 15(164): 79-79

ISSUE DATE:

1934-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166916>

RIGHT:

九年度總會報告

去る十月二十日、本會の總會は既報のプログラムに依り華々しく開催された。——その概況は70頁に木邊氏の執筆を煩した。——集ふ人々は遠くは松山、神戸、滋賀を始め市内の多くの會員に天文台員を混へて總べて三十余名の顔が揃ふ盛況。会場にはかの令名を轟かした「草場氏の星圖」や、北海道日食線圖が展掲されて見る者を驚かしてゐる。山本先生も何時にもない晴れやかな顔をして居られる。先づ司會者を改發氏にお願いし、開會を宣せらる。次いで筆者は本會事務現況、八年度會計内容を報告し池田氏之を説明して承認を得る。次に役員改選に移る。座長は委員を任命し、選定されし結果 **會長、副會長及び會計監督は現役員重任と決定**、山本會長は立つて「協會と花山天文台」の相互關係につき精細説明あり、前記の二有機々關の協調を力説せらる。又其他の議事も終る。——この頃より一同の意氣漸く上る。天氣は晴朗!! 此處で講演に移る。小山理學士の「ミラの話」は意義多く傾聴され、山本博士の「天文教育に關する私見」は參集者をして大いに覺醒せしめ、教育の立場より視た天文學の重要性を深く考察せしめた。——秋の陽は既に斜めに會場を射してゐる。——愈々呼物の山本先生提出になる「天文用語の討論」が始まる。人々の意氣揚々!! 池田氏の挑戦に始まり、贅言否語忽ち舌戰となる。爆笑が起る。論議は盡きぬ。半ばにして晚餐に入る。愈々熱し愈々熱す。快談又快談、和氣霽々。斯くて豫定の時も來れば一應閉會となし、夫々クック赤道儀で天體の觀望に、子午線觀測の見學に赴く。クック機には稻葉先生、柴田先生が擔當、懇切な指導をして一同を悦ばす。子午線觀測は公文先生と筆者が受持ち、上島先生は説明せらる。誰しも一般には見たことなければ珍しくもあつて、質疑交々。——次第に夜の更けるも知らず「天文日和」の今宵一夜を楽しみつつ、有意義なりし會合を祝し合つて解散する。

附記：本會の總會開催に當り種々御世話になつた方々に、茲に改めて深く其の勞を感謝致します。

——(高城)——